

2020年11月20日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2020年10月 マンスリー レポート

集計企業数 **55** 社

① 売上高・前年同月比

| | 全店 | | | 既存店 | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|
| | 売上高 | 構成比(前月) | 前年同月比(前月) | 売上高 | 前年同月比(前月) |
| 総 額 | 59,718,010 万円 | 100.0% | 104.6% (100.7%) | 57,972,222 万円 | 103.5% (99.6%) |
| 食 料 品 | 51,483,114 万円 | 86.2% (87.2%) | 104.8% (103.6%) | 50,083,542 万円 | 103.5% (102.2%) |
| 農 産 | 8,119,721 万円 | 13.6% (13.9%) | 108.7% (108.4%) | 7,902,391 万円 | 107.4% (107.0%) |
| 水 産 | 4,688,281 万円 | 7.9% (8.0%) | 106.7% (106.0%) | 4,559,574 万円 | 105.2% (104.4%) |
| 畜 産 | 6,839,982 万円 | 11.5% (11.0%) | 106.8% (107.1%) | 6,643,896 万円 | 105.4% (105.6%) |
| 惣 菜 | 5,960,781 万円 | 10.0% (10.1%) | 103.4% (101.3%) | 5,774,174 万円 | 101.7% (99.6%) |
| 日配食品 | 11,690,710 万円 | 19.6% (19.9%) | 103.6% (103.5%) | 11,378,816 万円 | 102.4% (102.1%) |
| 加工食品 | 14,183,639 万円 | 23.8% (24.3%) | 102.9% (99.9%) | 13,824,692 万円 | 101.6% (98.7%) |
| 生活関連 | 3,600,811 万円 | 6.0% (5.9%) | 107.6% (86.1%) | 3,513,413 万円 | 107.1% (85.6%) |
| 衣 料 品 | 1,450,527 万円 | 2.4% (1.9%) | 99.9% (73.9%) | 1,407,116 万円 | 100.7% (75.1%) |
| そ の 他 | 3,183,558 万円 | 5.3% (5.0%) | 100.5% (88.1%) | 2,968,151 万円 | 100.4% (88.8%) |

② 数 値

| | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------|
| 全店総売上高 | 59,718,010 万円 | 店舗数 | 4,869 店舗 |
| 総売場面積 | 9,504,222.9 m ² | 総従業員数 | 260,058 人 |

| | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------------|
| 店舗平均月商 | 12,264.9 万円 | 平均客単価 (前年同月比) | 2,028.2円 (107.4%) |
| 月間m ² 売上(前月) | 6.3 万円 (6.3万円) | 平均売場面積 | 1,952.0 m ² |
| 月間坪売上(前月) | 20.8 万円 (20.8万円) | パート比率(前月) | 76.8% (77.0%) |

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 10月の天候について、気温は北日本で高かった一方、その他の地域では前年よりも低く平年並みであった。降水量は東日本の日本海側でかなり少なく、東日本と西日本の太平洋側で多くなった。日照時間は北日本と東日本の太平洋側で少なく、西日本と沖縄・奄美で多くなった。
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物は、上旬は前月に引き続き高値であったが、中旬以降は前年を下回った。水産物は、前年並みの入荷量で卸売価格は前月よりやや高いものの、前年よりやや安値であった。畜産物では、和牛の価格が上昇し前年並みまで回復、豚肉は前月に比べて安値になったものの前年比では引き続き高値、鶏肉は高値が続いた
- ・ 前年に比べ金曜日と土曜日が1回多く、火曜日と水曜日が1回少ない曜日回りであった。また祝日は2回少なかった
- ・ 新型コロナウイルス感染症は、先月に引き続き全国1日当たり新規感染者数が三ケタで推移したものの、GoToトラベル対象に東京都発着分の追加、GoToイートのスタート、全世界からの観光以外の新規入国を再開するなど、人の動きが活発となった
- ・ 前年は台風などの災害特需による売上の増加や消費増税後の売上の減少があり、本年はそれらの反動があったとのコメントがみられた

《 商品動向 》

○農産

- ・ 野菜では気温の低下に伴い、鍋商材の白菜やキノコ、ネギ類などが好調であった
- ・ 果実は、国産果実では昨年長雨の影響で不振だったミカンやカキ・リンゴが好調となった一方、梨が不調であった。輸入果実ではバナナが好調であった

○水産

- ・ 生秋鮭やぶりなどの切身、マグロなどの刺身が好調であった
- ・ ホタテは相場安もあり好調であった
- ・ 塩干や冷凍魚、魚卵・貝が好調であった
- ・ 丸魚はサンマの不漁が影響し不調であった

○畜産

- ・ 牛肉は国産牛が好調で、用途はステーキや焼肉が好調であった
- ・ 豚肉は気温の低下に伴いしゃぶしゃぶ用やスライスが好調であった
- ・ 鶏もも肉、挽肉、加工肉が好調であった

○惣 菜

- ・ 米飯類では弁当や寿司が好調となり、揚げ物類ではフライやコロッケが好調であった
- ・ コロナ禍により秋祭りや学校行事が中止となった影響で、米飯・寿司類やオードブル、弁当の予約が無かったとのコメントがみられた

○日配食品、加工食品

- ・ 気温の低下に伴い和日配ではおでんや鍋物材料の練り製品や豆腐が好調となり、加工食品では鍋つゆやおでんの素が好調であった
- ・ 麺や漬物、冷凍食品が好調であった
- ・ 和菓子やデザートが好調であった
- ・ 気温環境により、牛乳を始めとするチルド飲料、ペットボトル飲料が不調であった
- ・ 前年の台風などの災害特需の反動でカップ麺やレトルトカレー・ごはん、水などの保存食品が不調であったとのコメントがみられた
- ・ 酒税改正により、減税となったビールが好調、増税となった新ジャンルが不調であった

○「ハロウィン」の動向について

- ・ ダウントレンドやコロナ禍での行事縮小や中止を織り込で計画したところが多くみられた
- ・ 個食用の商品を拡充するなどし、前年を上回った企業も見られた
- ・ かぼちゃをメニュー提案で販売し好調であったとのコメントがみられた

○「その他の市場」の動向について

- ・ 前年増税から一巡し、住居関連が好調であった
- ・ ウイルス対策のハンドソープ、除菌剤、マスクは引き続き好調であった